

# 読得 ヨミトク

No.19

## 新興国を疾走するF1

世界最高峰の自動車レースであるF1（フォーミュラ・ワン）。10月に三重県の鈴鹿サーキットで「日本グランプリ」が開催され、その翌々週には韓国で史上初のF1が開催される予定です。今年のF1開催国を見てみると、10年前（2000年）に比べて、新興国での開催が非常に増えているのが分かります。2000年に3カ国だった新興国での開催が、今年は8カ国にまで拡大しています。

F1開催には自動車メーカーや自動車部品メーカーの宣伝効果が期待できるほか、車体などに鮮やかな広告を掲げて、F1に関心がある人たちの消費を刺激するといった効果が期待されています。中間所得者層の拡大に伴う消費への期待が高まっていることが、新興国のF1開催が増えた背景といえます。

F1に大量の広告を出すタバコ会社が多いため、先進国でタバコへの広告規制が強化されたことによって、規制が緩い新興国でのF1開催が増えたといった見方もあります。しかし、飲料メーカーや通信会社、金融機関などF1の広告主は多岐にわたります。新興国が先進国を上回る成長を続け、消費拡大への期待がさらに高まれば、F1の開催数で新興国が先進国を逆転する年がやってくるかもしれません。

F1開催国の変遷



出所：Formula OneのWebサイトのデータを元にGSAMが作成。MSCIワールドに含まれている国を先進国、含まれていない国を新興国（水色と紺色）と定義。紺色の国は新たにF1の開催国となった国を表しています。F1は1カ国1開催が原則ですが、欧州では同じ年に複数開催される国があるため、一方のレースをヨーロッパ・グランプリと呼んでいます（※部分）。

新興国の株価指数を「グローバルマップ」でチェック [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)



Asset Management

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社において入手した信頼できるとされる資料に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。本資料の一部または全部を、(I)複製、写真複製、あるいはその他いかなる手段において複製すること、(II)弊社の書面による許可なく再配布することを禁じます。  
© Copyright 2010, The Goldman Sachs Group, Inc. All rights reserved. <審査番号:TK10090063>